

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	175000843		
法人名	株式会社 ふれやか		
事業所名	グループホーム ふれやか 癒楽		
所在地	北見市春光町1丁目31-1(電話・FAX)0157-61-5666		
自己評価作成日	令和5年12月28日	評価結果市町村受理日	令和5年4月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・コロナウイルス蔓延の為、ご家族様へは面会制限をさせて頂いて居りますが、玄関ガラス越しでの面会は実施しています。館内の消毒も毎日定時と適宜実施して居り、入居者様のコロナウイルス、インフルエンザ等の感染はありません。
 ・入居者様には出来る範囲でのお手伝いをお願いしていますが、年々出来る事が少なくなってきました。
 ・外出等が出来ない為、その分密なコミュニケーションを図り、廊下の歩行運動や車椅子の自走などADLの維持や精神的不安の除去を図っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://snsaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0175000843
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和5年3月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、平屋造りの1ユニット9人の事業所で周辺にはドラッグストアなどの商業施設や散歩に便利な公園など生活しやすい環境に位置し平成17年開設しています。利用者は日中はリビングや居室でテレビ鑑賞や休息、オセロや音楽(演歌、歌謡曲、童謡)等で生まれ個々のペースで毎日ゆったりとした時間で過ごしています。コロナ感染予防対策の為、外出が出来ませんが、残存能力維持からも利用者へ声を掛けて事業所内の廊下で歩行訓練や車いす自走などの運動を促し、利用者はそれを日課として過ごしています。利用者個々の状況に沿った支援に特化した事業所で、運営推進会議でも家族の了承を得て利用者状況を詳しく記載されたものを全家族や運営推進委員に配布して認知症の理解と周知に努めています。法人での研修は職員の介護技術向上などを目的に年計画に沿い、コロナ感染防止のため書面での研修となっています。入居者様が安心して生活して頂けるようなアットホームな環境作りを心掛けており、利用者一人ひとりの生活リズムに合わせ、喜怒哀楽のある感情豊かな生活が送れるよう職員一同、心をこめた介護の提供に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、理念は館内に掲げ職員共有し、入居者さん一人一人に声かけし毎日ゆっくり落ち着いた生活が送れる様支援しています。	理念は見やすい場所(ホール、キッチン、職員休憩室等)に掲示し、職員の振り返りを促しています。利用者の出来る事を奪わあい様に見守りを主にさり気ない支援に徹するように利用者が笑顔で楽しく生活できるように取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会、地域との繋がりを大切にしているが、コロナウイルス蔓延の中、なかなか連携が取れて居ない状況です。町内会回覧板にて情報得て、緊急時連絡網配布し協力を得て居り支援を行っています。	コロナ感染防止対策のため、外出が出来ない状況ではありますが、町内会会長には議事録や事業所便りを持参し町内会回覧板等の情報交換を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染予防の為、外部からの入館は制限しております。可能になった際は積極的に取り組みます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防の為、書面での開催としております。作成した報告書を配布する事でホームの状況をお知らせしています。	年6回の運営推進会議は偶数月で書面会議にて利用者状況や行事、研修、事故報告、コロナ状況などの報告を行っています。議事録は家族や推進員に送付して事業所の理解に繋げています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護福祉課より研修のお知らせ、空床情報、運営推進会議報告書の提出等協力頂いて居ります。	運営推進会議議事録や事業所便り、空き情報等の情報交換や解らないことを直に電話で相談するなど良好な関係構築がなされています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを実践しています。身体拘束廃止委員会(コロナ感染対策の為書面で開催)により施設長、ケアマネ、保健師、管理者、スタッフに課題、対応方法など検討、周知しています。	年4回の身体拘束・虐待防止委員会(施設長、ケアマネ、保健師、管理者)と年2回、職員研修が書面にて実施されています。特に認知症における言葉の使い方や抑制用語、利用者に大きな声で話をしないことに気を付けるように指導しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より身体的、心理的、言葉の虐待を行わないケアを日常的に実践しておりますが不適切な対応の場合はその場でスタッフに伝え改善する様努めて居ります。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市民後見人利用者3名居ります、市民後見人担当者さんは月1回面会及びスタッフへの聞き取り調査頂き、都度生活状況の報告、利用者さんともコミュニケーションが取れていると思っております。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の契約の際、重要事項の説明を充分行い、理解、納得頂いて居ります。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的、運営推進会議に意見、苦情があった際はスタッフミーティングで話し合い、解決策を打ち出しご家族様へ報告しています。意見箱も有りますが、殆ど活用されておりません。	コロナ感染予防対策で、面会禁止や面会制限で玄関ガラス越しでの面会を行っています。家族には面会できないことから、運営推進会議議事録で利用者状況の詳細を記載した文書を送付し家族の安心に繋がっています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの意見、提案は日常的に聞き入れ、内容によっては、全体ミーティング、施設長に挙げるなどして結果スタッフへ報告しています。	会議は書面会議でカンファレンス、行事や介護向上での意見や提案を聞き、積極的な運営参加に繋がっています。職員の意見が言いやすい環境が作られ、毎日の書面にての申し送りで情報を積み重ねることで、サービスの向上に取り組んでいます。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の能力評価を行い個々の努力や勤務状況に応じて時給UPに繋げやりがいを持って働ける環境作りの努めています。又、シフトに関してはスタッフ個々の状況を鑑み、休み希望の受け入れをして作成しています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に参加促し、終了後は報告書提出して貰い、送り講習を行い互いに知識の向上に努めていますがコロナウイルス蔓延の為、外部研修は中々参加出来て居ないのが現状です。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染対策の為外部の方との接触は控えている状況なので、交流は出来て居ませんが、社内で知りえた有益な情報をスタッフ間で共有しています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面会時にご本人の様子、知り得た情報を細かくスタッフに提示し、不安な事、要望等に耳を傾け安心してホームで生活出来る様関係作りに努めて居ます。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの困っている事、要望等細かく情報頂き、入居後面会時、モニタリングの際、日常の様子、身体的、精神的な面をお伝えし常に相談しながら 良い関係作りに努めて居ます。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族から必要としている支援を見極めサービスの提供をしています。訪問歯科、訪問看護、訪問理美容、クリーニング委託など預かり金から支払い代行、買物代行等希望に応じて行っています。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、出来ない事を見極め 出来るだけ色々な事に参加して頂き ともに生活をする者同士の関係を築いています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルス感染対策の為面会制限を行っていますが、玄関でのガラス越し面会は行っています。年4回の会報や変わったことがあれば都度連絡し情報共有に努めています。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や支援員様の来訪時にはなるべく面会して頂ける様支援しています。	家族や親戚、知人の面会は玄関先や窓越しで行っています。利用前の習慣は新聞の購読や電話等の支援に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	殆どの入居者様がリビングなどの好きな場所で過ごされて居り、スタッフの声かけにレクレーション、ラジオ体操等行って居ます。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談、支援を行う様心がけています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中から表情、思い等汲み取り出来るだけ希望に添えるよう努めて居ます。	日頃の何気ない会話の中から、利用者の好みや希望を把握しています。思いや意向を汲み取り、心の安定が得られるように支援をしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の好む事、嫌いな事等生活歴を基に把握し本人の思いを大切にスタッフ共有しサービスに努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の心身状態、表情、一人一人を把握しながら穏やかな1日を過ごして頂ける様声かけ支援していますが、気の合わない入居者さん同志言葉のトラブル生じる事多々ありお互いを回避する事も有ります。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケアカンファレンスを行い、3か月毎モニタリングし、本人、ご家族様の意向を最大限取り入れたケアプランを作成し、実践する様努め症状が変化した際、プランを見直しもその都度行っております。	利用者の状況の変化を把握し、生活していくためのニーズを取り入れながら、担当職員と計画担当とで内容の検討を図りながら本人・家族の意向を聞き取りながら見直し作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づき毎日のケアの実践や変化の有る事等、SOAP式を使い個別の生活記録に記載し、申し送りにて情報共有をしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様居られない方、遠方の方に関して受診対応、支払い代行、買物支援等行い柔軟な支援を行っています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染対策の為外出機会はほぼ有りませんが、落ち着いた際には積極的に地域交流を行います。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を楽しみながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科往診月/1回2名、訪問診療2名、訪問看護3名家族様の希望を取り入れ対応しています。ご家族様の負担を最小限にと配慮しており緊急時は管理者・保健師が受診対応しています。	4週に1回の希望する医療機関の往診を利用する方や訪問看護、処方薬のみの利用者等家族の希望する方法で利用者の健康管理を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的な気づきや情報は管理者へ報告、相談し、保健師が定期的に健康管理を行い情報共有しています。又、訪問看護来館時はその方の状況をお伝え相談し、受診の際細かく症状を主治医へ報告しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療必要になられた際は、常に本人の状態を知る為状況確認を頻回に行い、主治医から状態説明受けご家族様と相談し早期退院が出来る様支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在看取り対応の入居者様はおりませんが、いつでも対応できるよう、重度化された際の指針をもとに研修を行っています。	重度化や終末期に向けた方針は、入居前に本人及び家族に説明をし理解して頂いています。職員は看取りの研修を年1回に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応AEDの使用方法はスタッフ全員講習を受け習得しているが、実際に使用した事は今の所無く、入居者急変時は管理者・保健師へすぐ連絡入れる様にしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練はコロナウイルス感染対策の為消防職員の立ち合いではなく、施設自主訓練として年2回入居者さんの協力頂き行っていきます。夜勤帯スタッフ1人の為避難誘導をシミュレーション行うなどしています。	コロナ感染対策のため、消防立ち合いや町内会の参加はありませんが、火災避難訓練は、非常災害時の対応・火災時対応をふれやかマニュアルで職員一人ひとりが確認し訓練しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格、人柄を把握し、気分を損ねない声かけ対応する様配慮しています。	利用者一人ひとりに合わせた声掛けや問い掛けをし、大きな声で話さないようになるべく利用者の近くに行くなど配慮しながら誘導や会話をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者さんが自己決定出来る様対応していますが、「判らない」「どうしたら良いの？」の声が聞かれる事が多く、「こうしたらどう？」とアドバイスしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に何かしたいと希望される方は殆ど居なく、スタッフ声かけで、館内散歩、体操、音楽鑑賞、ゲーム等行って1日を過ごして居ます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洋服選びは本人に任せて居りますが、何日も同じ服の際は声かけ着替えて頂き、下着は毎日取り替える、外出時はその方に有った少しのおしゃれを支援できるよう心掛けて居ります。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在食事の際の盛り付け参加出来る方居なく、入居者さんが一口でも多く食べたいと思える盛り付けの工夫をして居ます。	法人の配食サービスを利用していますが、主食や汁物は事業所で行い、利用者の状況に応じ刻みやトロミ等で提供しています。鯉の出前を利用者皆で楽しんでいます。誕生会は利用者の希望を聞きながら楽しみとなるように工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来るだけ食べれる様、個別に食事形態を替えて提供しています。水分制限されている人以外は1500ccを目途に拒否される方には飲みたいもの都度提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に口腔ケア、義歯洗浄行って居ます。自身で歯を磨く事も忘れて居る方には介助し定期的に訪問歯科受けられる様支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1名を除き、日中はトイレでの排泄を支援しています。失敗の多い方は時間見てトイレ誘導行う、殆どの方が排便後の後始末不十分の為、見守りウオシュレット、清拭介助させてもらい清潔を保つよう支援しています。	日々の排泄の記録を確認し、状況と状態に合わせ清潔保持に努めています。トイレの見守りや介助は利用者の日々の変化に合わせ必要に応じた介助を支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳、冷水提供し、食事も良く噛んで、好き嫌いせず食べて頂く様声かけ、出来るだけ、独歩可能な方には軽運動促し、腹部マッサージをする等便秘予防に努めて居ます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否される方は殆どおらず、適宜入浴して頂いています。稀に拒否される方も別な曜日やスタッフの変更など行い入浴されています。	バイタルチェックを行い体調に合わせて、週2回の入浴を楽しんで頂いています。2人介助や同性介助、シャワー浴、浴槽浴、見守り等利用者の状況に合わせて行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間だけでなく日中もうたた寝されている方にはベッドで休む様声かけし、休んで頂いています。何時でも気持ちよく休める様、ベッドメイクを忘れず行う様配慮しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状に応じて主治医と相談し処方された薬は事務所に保管し、都度個別のケースへ入れ、名前、日時、錠数の確認等Wチェックをその都度行い、誤薬しない様支援しています。スタッフは用途、副作用等理解する様努めて居ます。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お誕生会にはバースディケーキ手作りしてお祝いしていたが、「ケーキ嫌い、稲荷作って」など本人の希望を受け入れることも有ります。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染対策の為店舗等への外出は行っていませんが、天気の良い日に外気浴を行うなどしています。	天気の良い日の散歩や事業所内の廊下で歩行訓練などの運動を促し残存能力の維持に努めています。外出は出来ませんが、事業所内のイベントなどで気分転換を図っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウイルス感染対策の為入居者様と一緒に買い物等は行えていませんが、洋服など、ご本人様の趣味趣向を確認した買い物支援を行っています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎ、希望のある方は遠方のご家族に電話を繋げたり都度支援しています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調には常に配慮し、感染対策を含め換気を行っています。冬季暖房中は、濡れバスタオル干すなどを適宜交換し湿度を保っている。季節を感じて頂ける様ディスプレイを取り入れて居ます、トイレ汚染も頻繁に有る為使用後は小まめにチェックし清潔を保っております。	季節を感じて頂けるよう職員と一緒に作品や行事の飾り付けを行い楽しく過ごして貰えるよう取り組んでいます。バスタオルなどを使い加湿を調整し快適に過ごせるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者さん殆どの方がリビングにて過ごされ、大体の方自分の居場所を決められTVを観たり、音楽を聴いたりされて居ます。最近では傾眠傾向のある方は日中でも居室で休んで頂く等対応しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	身体的状況に合わせベッドの位置等、御家族と相談の上配置替えさせて頂き 見慣れた写真等置き安心して暮らせる様支援しています。	居室には押入れが設置されており、使い慣れた椅子やソファ、仏壇などが持ち込まれ、家族や孫の写真が飾られてその人らしい部屋になっています。居室で気兼ねなくリラックスして過ごせるようさり気ない支援に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行不安定な方は手すりや歩行器を使用、独歩可能な方ゆっくり廊下歩行され、車椅子の方は自走運動されております。		